

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学
学籍番号	16s3066	院生氏名	山口 育子
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	地域在住高齢女性の運動耐容能に関する研究 ～呼吸機能の影響～		
審査結果（枠で囲む）	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 合格 不合格 </div>		
<p><審査結果の要旨></p> <p>介護予防において、軽度要介護認定者の活動範囲の維持には運動耐容能を維持させる必要がある。本研究は、運動耐容能の影響因子を呼吸機能も含めて明らかにし、さらに影響因子に対する直接的介入が運動耐容能に及ぼす効果を明らかにすることを目的とした。観察研究では、通所リハビリテーションに通う高齢女性60名（要支援1,2, 要介護1,2）を対象に各種身体機能を測定し、介護度の違い並びに運動機能（歩行速度、握力）の違いによって運動耐容能の影響因子を分析した。結果、瞬発的な運動機能は維持されていても、呼吸機能、運動耐容能の低下が示された。また、運動耐容能には筋力、歩行速度に加え吸気筋力が関連した。運動機能低下群では運動耐容能と呼吸機能も低下し、運動耐容能には歩行速度に加え肺活量も影響した。次に介入研究として、同対象21名に対し吸気筋トレーニングの効果検証を行った。全体では効果を示さなかったが、吸気筋力が増加した対象者では、息切れ感や疲労感は増加することなく運動耐容能は増加した。呼吸筋に予備力をつけることの効果が示され、これは介護予防における介入の選択肢が増えることになり、本研究の意義と考える。</p> <p>今後、トレーニング方法などの検討は必要だが、骨格筋と呼吸筋を強化する相乗効果で運動耐容能が向上する可能性を見出せたことから、軽度の要介護認定者の活動範囲の維持につながると期待できる。</p> <p>本研究の新規性は、運動機能項目に 6 分間歩行テストを追加し、その基盤となる呼吸機能、換気の動力源となる呼吸筋力に着目して運動耐容能を検討した点であり、介護予防に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>審査会は 1 回開催し、初回審査で、意義と背景、データ測定方法ならびに統計学的分析方法についての詳細説明などについて論文の修正を求めたところ適切に修正された。</p> <p>口頭試問においても適切に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>主 査</div> <div>西田 裕介</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>副 査</div> <div>畦上 恭彦</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>副 査</div> <div>金子 秀雄</div> </div>		